道徳科	第１，２学年	三次市立川西小学校	指導者

教材名 **「いいところみいつけた」【出典:「2年　生きる力」日本文教出版】**
主題名:自分のいいところ【A-4　個性の伸長】

１　日　時　　令和５年９月１４日（木）　５校時
２　学　年　　第１学年　４名　　第２学年　３名　　計７名
３　ねらい　　自分や友達のよいところについて考えることを通して，よいところが見つかるととてもうれしい気持ちになることに気づき，自分の良いところを見つけたり，大事にしたりしていこうとする態度を養う。
４　主題設定の理由

単元観

第１学年及び第２学年の指導内容 A -（4）「自分の特徴に気づくこと」を基に設定した。

自分のよいところを見つけることは，児童が自己肯定感を高め，将来にわたって自分のよさを発揮していくために大切なことである。しかしこの時期の児童は自分を客観視しにくいため，自分のよいところを自分で見つけるのは難しく，周りの人から指摘されてはじめて気づくことが多い。

日ごろから友達のよいところを見つけ合ったり，教師が様々な場面で児童のよいところを紹介したりしていく中で，児童は自分自身のよいところに目を向けることができるようになる。またお互いにそれを認め合ったり，励まし合ったりする中で，児童自ら新たな長所を見つけようとするようになる。本単元を通して，自分のよいところが見つかったうれしさを実感し，さらにそれを伸長していこうとする意欲へつなげていきたい。

児童観

指導観

導入では，事前アンケートで調べた「自分のいいところ」を大型モニターで紹介し，自分や友達のよさを見合うことで温かい雰囲気を作るとともに，本時は「自分のいいところ」について考えるという方向付けをする。

展開では，弟に比べて自分にはいいところがないと思っているりえさんの心情に寄り添わせながら，資料を読み進める。途中，小さい子の面倒を見ていて掃除に遅れ，それが友達に理解されず悲しい思いもするが，教師の言葉を聞いてうれしくなるりえさんの気持ちを場面絵も活用して自分事として考えさせる。また，自分にはいいところがないと思っていた初めの場面の表情とも比べさせることで，自分のいいところを見つけた喜びも感じていることに気づかせていく。

終末段階では，事前に友達のいいところを書かせたカードを交換し合うことで，自分では気づいていなかったいいところがあることに気づかせ，その喜びを実感させる。また数人のカードを紹介することで，技能面だけではなく性格面のいいところもあることに気づかせていく。その後ペアトークを仕組み，お互いのカードを見せ合ったり，気持ちを交流しあったりすることで自分のいいところが見つかった喜びを共感し合いたい。

（1）評価について

【評価の観点】　よいところが見つかるととてもうれしい気持ちになることに気づき，自分のよいところを見つけたり，大事にしたりしていこうとする意欲が見られたか。

【評価の方法】発言・道徳ノート

（2）準備物

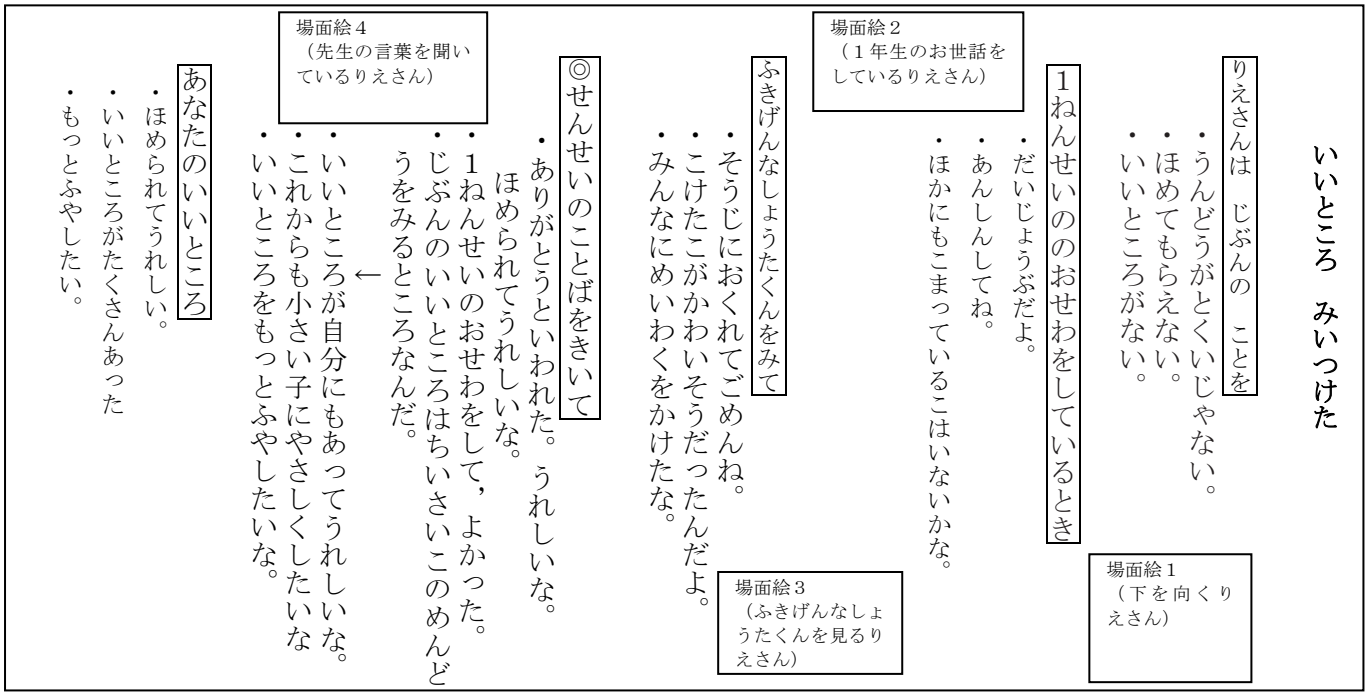
挿絵　大型モニター　パソコン

（3）展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問　◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など（●）評価（★）
導入	**①「学習テーマの提示」** 1　本時の学習への興味や関心を高める。	○　みんなのいいところを紹介します。 O…絵が上手　　K…字がていねい。 S…足が速い。　　K…サッカーが上手 T…野球が上手。　S…お世話が上手 F…字がきれい。	○事前アンケートで書かせた「自分のいいところ」を紹介し，それぞれいろんな良さがあることを実感させる。 ●大型モニターに提示する。
展開	**②「追求活動」** 2　教材「いいところみいつけた」の内容を知り，話し合う。	○　りえさんは，自分のことをどんな子だと思っているでしょう。 ・おとなしい。 ・運動が得意じゃない。 ・ほめてもらえない。 ・いいところがない。 ○　一年生の荷物をもってあげているりえさんは，どんな気持ちでしょう。 ・大丈夫だよ。 ・手伝ってあげるから安心してね。 ・ほかにも困っている子はいないかな。 ○　不機嫌なしょうたくんを見て，りえさんはどんなことを思ったでしょう。 ・掃除に遅れてごめんね。 ・こけた1年生のことがかわいそうだったんだよ。 ・迷惑をかけてしまった。 ◎　先生の言葉を聞いて，りえさんはどんなことを考えたでしょう。 ・ありがとうと言われた。うれしいな。 ・ほめられて，うれしいな。 ・1年生のお世話をして，よかった。 ・自分のいいところは小さい子のめんどうをみるところなんだ。 ↓ ・いいところが自分にもあってうれしいな。 ・これからも小さい子にやさしくしたいな。 ・いいところをもっとふやしたいな。	○　初めの6行だけ読む。弟に比べ，自分にはいいところがないと思っていることを押さえる。 ●場面絵を貼り，その時の状況やりえさんの表情に着目させる。 ○　自分のことより小さい子の面倒を次々見るりえさんのやさしさに気づかせる。 ○　みんなに迷惑をかけて自分が悪いと思う気持ちと，わかってもらえない悲しい気持ちに気づかせる。 ○「はじめのりえさんと，今のりえさんの表情が違うのはどうしてだろう。」と問い返しを行い，自分がしたことをほめてもらえたことだけでなく自分のいいところを見つけた喜びに気づかせる。

終末	③　「児童一人一人のふりかえり」 ３　本時の学習から自分たちの生活について振り返る。	○　みんなのいいところはどんなところでしょう。友達が見つけたあなたのいいところを読んでみて，どんなことを感じましたか。 ・ほめられてうれしい。 ・書いてくれてありがとう。 ・たくさんいいところが書いてあった。 ・自分にはいいところがたくさんある。 ・もっといいところをふやしたい。 ○　先生もみんなのいいところを見つけました。	●事前に友達のいいところを書かせたカードを用意しておく。 ○もらったカードを見て思ったことをペアで交流し合う。 ○意図的に指名をし，技能面のよさだけでなく，性格面のよさにもあること気づかせる。 ★良いところが見つかるととてもうれしい気持ちになることに気づき，自分の良いところを見つけたり，大事にしたりしていこうとする意欲が見られたか。 ○担任が見つけた１・２年生のいいところを伝え，余韻を持って終わる。

6　板書計画



【事後研修のまとめ】

＊授業者の振り返り

①発問の検討（発問を絞り込んでいたか。問い返し発問が適切であったか。）

・中心発問は、「その時どんな気持ちだったのか。と」問うのではなく、「どんなことを考えたのか。」を問うことで、「うれしい。」「よかった。」だけに終わらず、「自分にもいいところがあった。」「これからも・・・していきたい。」などと、幅広く考えたことが出た。

・中心発問に至るまでの発問も、「どんなことを考えたのか。」と同じように発問したため、単調になった面がある。

②対話場面の設定が有効であったか。

・ペアトークを最後に入れたことで、全体での対話とは違い、ほっとした表情を見せながら、お互いカードをもらった喜びを共有し合えていた。

成果

○　全体的な構成はよかった。りえさんの気持ちに寄り添って考えることができていた。

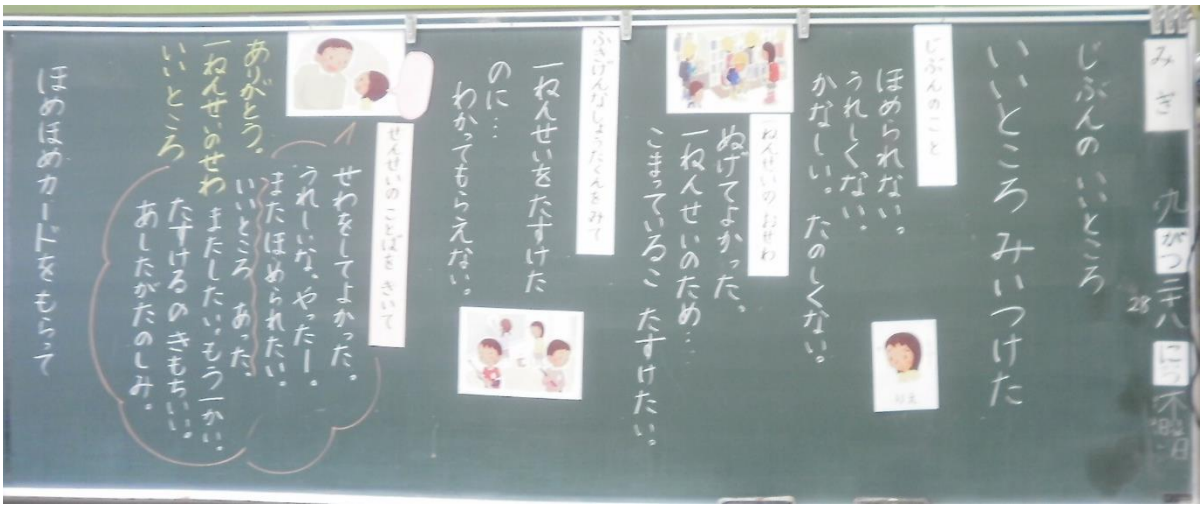
○　資料を細切れで提示したことで、１年生も内容を理解し、意欲的に発言することができていた。

○「りえさんは自分のことをどう思っているか。」の発問後、「ほめてもらえないからいや。」「じぶんのことがいやだ。」という考えが出たが、その時の「ほめてもらえないからいやなの？」という問い返しは、主人公が何を嫌だと思っているのかをはっきりさせることにつながった。また中心発問の後に、「初めのりえさんと今のりえさんの表情が違うのはどうしてだろう。」の問い返しにより、児童は「ほめられてうれしいから。」「自分にもいいところがあってうれしいから。」という考えを持つことができた。

課題

●ほめほめカードにイラストが描いてあったことで、ほめられた内容よりもイラストに目がいった児童がいたので、描かない方がよかった。

●りえさんが先生からほめられた後に、「どうしてほめられたのか。」「りえさんのいいところはどこだったのか。」を丁寧に押さえるとさらに理解が深まった。

●「おとなしいからだめ」ということを児童に思わせてしまうところが、この資料にはあるのではないか。そうではないということも、どこかで押さえておくべきである。

●発表の仕方で、「〇〇さんと同じで・・・/違って・・・」というような言い方をだんだんにできるようになってほしい。